

# 集中豪雪を監視する

- 降積雪情報の高度化 -

雪氷防災研究センター

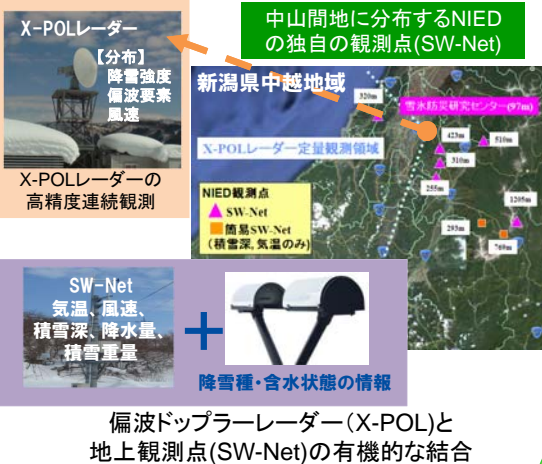
## 目的

1990年代は暖冬少雪傾向と言われたが、**2000年代になると再び豪雪が発生**している。また予期せぬところで、局地的、突発的に豪雪(**集中豪雪**)が発生する傾向がある。このような集中豪雪は**予測が困難**であり、現状の監視も併用しながら災害対応する必要がある。一方、顕著な**湿雪災害**(着雪や融雪災害)が目立ってきている。このような湿雪災害は今後**温暖化によって増加**する可能性があるが、湿雪災害の発生メカニズムには未解明な点が多い。このような集中豪雪や湿雪に伴う災害を防ぐために、雪氷防災に役立つ**高度降雪情報**(どこでどんな雪がどれくらい降っているか)ならびに**高度積雪情報**(降雪の種類や融解・雨に伴って積雪がどのように変化するのか)を提供するための研究を行う。

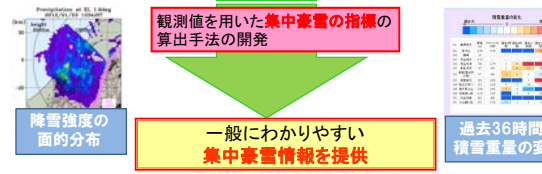
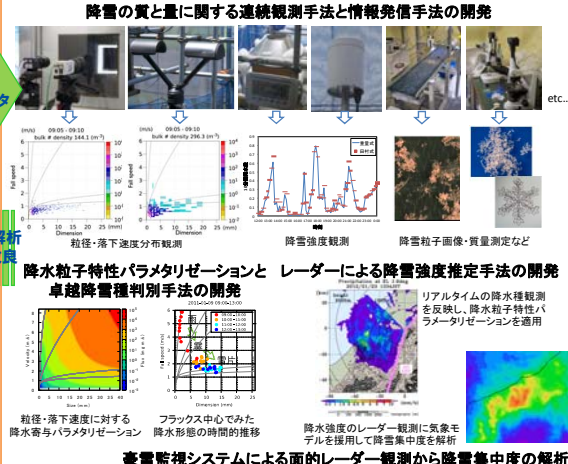
## 降雪情報の高度化研究

集中豪雪による被害を軽減するために**集中豪雪監視システム**による観測をもとに、**降雪種判別・降雪強度推定手法**の高度化を図り、突発的な集中豪雪の発生を把握する。

### 集中豪雪監視システムの構築・観測



### 降雪情報(降雪量・降雪種・含水状態)の高度化



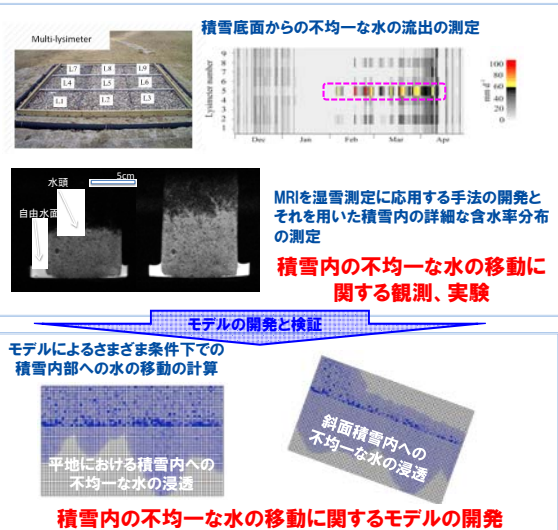
雪氷災害発生予測システムの**降雪強度・降雪種分布の高精度化**

**リアルタイムハザードマップの精度向上**

## 積雪情報の高度化研究

表層雪崩・全層雪崩、融雪災害の被害を軽減するために、水みちなど積雪中を不均一に流れる水の過程を再現できる**湿雪対応の積雪モデル**の開発ならびに降雪種、雪質ごとの積雪変質過程の違いなどを表現できる**積雪微細構造モデル**を開発する。

### 湿雪対応の積雪モデルの開発



### 積雪微細構造モデルの開発

